



2023年  
7月号

発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
<https://www.nskk-kobe.org/>



発行責任者  
司祭 瀬山 会治

印刷所  
文明堂印刷所

『わたしは植え、アポロは水を注いだ。  
しかし、成長させてくださったのは神です。』

〔リントの信徒への手紙Ⅰ 三章六節〕

グレース 末永 忍

現在神戸教区常置委員を務めております末永です。私は今年七月で、堅信受領五十年を迎えました。当時を思い返せば、中学生になって「牧師の娘だから」と言われることに疑問やモヤモヤを感じている頃でした。私の気持ちの転機になったのが、【中高生大会】でした。中高生とカウンセラー（キャンプサーバー）の皆さんが沢山参加しており、その中にも牧師家庭に育った人がいて、「自分には沢山の仲間がいる」と感じた時でした。神戸教区の【中高生

大会】は教区・教会がバックについてサポートしてくださいましたが、企画運営は担当本部の中高生が中心となって行われておりました。私も本部に二度携わり、大会長も経験しました。【中高生大会】の歴史も六十年近くとなり、OBの中から沢山の聖職の方が召命を受け、各教会でも信徒としてそれぞれの働きを担ってくださっている話を聞くと、【中高生大会】は、信仰を育む場としてとても重要な位置づけであると思えます。

短大時代は大阪教区に在籍し、初めて電車に乗って教会に通う経験をしました。高松・徳山・芦屋・下関・北関東教区の日立、そして現在の明石の教会で多くの方との出会いがあり、皆様との絆が、私の信仰生活の基となっているように感じます。

十年前より明石の牧羊幼稚園に勤め、現在園長職を担っておりますが、牧羊幼稚園は昨年九月に七十周年を迎えました。キリスト教保育は「信仰の種まき」とよく言われます。蒔かれた種がいつどの様に開くかはわかりませんが、幼稚園で種をまかれた子どもが大人になり信徒奉事者をしていて話を聞きました。又、「何十年ぶりに幼稚園と教会に来ました。」と卒園生が訪ねて来られたり、卒園生の方

のお子様の入園も増えたり、入園希望の方で「キリスト教の幼稚園に行っていたので子どもにも同じような幼稚園に入れてたくて」と言われる保護者がおられたり、先人の皆様

が蒔かれた種が今に繋がっているのを感じるこの頃です。私に蒔かれた種が沢山の方々働きと神様の導きによって育てられたように、今度は私が種を蒔く人となり、次へと繋がっていく、信仰の継承者として、私に与えられた働きをこれからも務めていきたいと思えます。

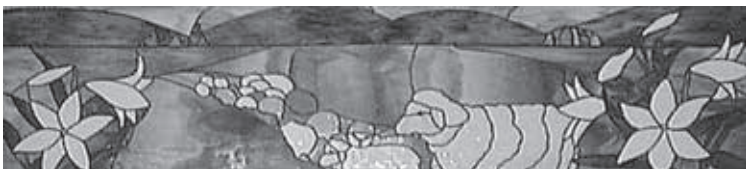
〔明石聖マリア・マグダレン教会信徒 神戸教区常置委員〕



明石聖マリア  
マグダレン教会



牧羊幼稚園



教会入り口のステンドグラス

# 第19回神戸教区 婦人会代表者会・親睦会を終えて

神戸教区婦人会事務局代表 赤木輝美子



緑の美しい後楽園近くのプラザホテルにおいて5月9日〜10日第19回神戸教区婦人会代表者会・親睦会を行いました。

振り返りますと2020年5月に婦人会大会と代表者会を予定していましたが、コロナ禍が発生し、やむなく

大会は中止となり、代表者会も延期の決断に至りました。

その後事務局役員も教区婦人会の皆様の承諾のもと任期を3年延期いたしました。今年

は2期目の終わりとなる年です。ぜひとも代表者会を開催したいと昨年夏より考えて参りました。各婦人会の皆さまのご意見も伺いながら交わ

りの時を持ちたいと、代表者会と一緒に親睦会の資料を各婦人会にお送りしました。多くの方の「出席する」とのお返事は本当に嬉しく受け取りました。コロナがどうなるかわからない中、祈りながらホテル探しから準備にとりかかりました。

5月9日開会礼拝後開催した代表者会は、19教会中17の教会婦人会代表が出席、議案はすべて可

決され、新代表には明石の溝川いずみ姉、次期大会は米子を中心として山陰伝道区が準備して下さることに決まりました。夕飯の後、感謝箱献金

奉献先を皆様に良く知っていただくたいとプロジェクトを準備しそれぞれの活動について写真を交えながら報告いたしました。

資料作成には感謝箱献金事務局長の井田様にもご協力いただきました。

昨年管区婦人会総会でお聞きした「日本聖公会における女性の司祭按手。主教按手に至る道」も同様に見

て頂き、日本聖公会婦人会の先輩たちが女性教役者を望み、働きかけた様子もわかりました。また日

本聖公会婦人会員の減少には比例せず、お捧げ下さった婦人会の皆さまの感謝箱

献金の状況もグラフで表し見ていただきました。この後の話し合いで「感謝箱献

金のお捧げ先の様子がよくわかった。」「これから教会全体で感謝箱を広めていきたい。」「多くの方が思われたようでした。

2日目は聖餐式に続き、主教様のランベス会議のお話、恵子様からは女性の立場から経験されたお話を聞きました。この後6〜7名のグループに分かれ、皆様から頂いた意見をテーマに話し合いをしました。活発な話し合いの中

で、「出来ない」と心配するより一人ひとりができる働きをしていけば良い。」「高齢化

の中、経験を重ねてきた後姿を見せる。」「日本聖公会婦人会の一員としての交わりは大きな喜び!」など多くの意見を頂きました。分かち合いの

時間は予定をオーバーしましたが充実の時間が持てた、話し合っってよかったですと喜んでいただき我々も安堵しました。お忙しい中ご出席くださいました小林主教様、恵子様、チャ

プレン上原司祭様、各司祭様。参加してくださいました婦人会の皆さま有難うございました。感謝いたします。(岡山聖オーガスチン教会信徒





# オーガスチンの まなざし



主教 小林 尚明

## 『西日本宣教協働区が おもしろい』

最近、神のおとずれや教区の事務所だよりに「西日本宣教協働区」という言葉をよく見るようになりました。

これは、2020年10月に行われた日本聖公会の総会で「日本聖公会を3つの宣教協働区に分け、各協働区に協働委員会を設け、区内の運営、宣教・牧会などについて協働を推進し、教区再編について検討すること。また再編に向けての、教区主教を持たない管理主教のもと「伝道教区」という過渡期的な共同体」が承認されたことによりです。私たちの神戸教区は、沖縄教区、九州教区と共に、西日本宣教協働区として、活

動しています。

昨年から行われている沖縄慰霊の日の礼拝、広島原爆逝去者記念聖餐式、長崎原爆記念礼拝の三つの礼拝を一枚のポスターに案内しています。そして、今年から広島、長崎の礼拝に三人の主教が集まれることになりました。

また、オンラインによる「祈りのつどい(夕の祈り)」が順調に進められています。3月に一度練習をして、4月14日、5月16日、6月16日と行われました。

最初は、オンラインで祈ってもどうなんだろう?と少々懐疑的でしたが、皆さんと共に祈りしてみると、なんだか幸せな気持ちになつてきました。実に不思議な感覚です。内容は主教の挨拶、担当教区の一つの教会の紹介、詩編、聖書の朗読、そして、一緒にお祈りを捧げました。次回は、7月11日(火)九州教区の担当です。参加の方法など教役者にお尋ねください。是非、参加・体験ください。

(神戸教区主教)

## デイサイプルシップ②

### — 学ぶといふこと —

神学塾運営委員 司祭 ダビデ 林 和広

近年、全世界聖公会から「デイサイプルシップ」(弟子であること)という言葉が盛んに発信されております。これは2016年にザンビアで開催された全聖公会中央協議会にて「意識的に弟子を生きること」、「弟子を作る」というビジョンを9年間、積極的に世界中の聖公会に呼びかけていくことが決議されたことが契機となっています。

近年、全世界聖公会から「デイサイプルシップ」(弟子であること)という言葉が盛んに発信されております。これは2016年にザンビアで開催された全聖公会中央協議会にて「意識的に弟子を生きること」、「弟子を作る」というビジョンを9年間、積極的に世界中の聖公会に呼びかけていくことが決議されたことが契機となっています。

「意識的に弟子を生きること」という言葉は2008年に英国で開催されたランベス会議後、福音宣教を促進させるために検討し、方策を立てるために設置された委員会によるものです。その後もこのビジョンを広げていくための委員会、ネットワークが設置され、そこからデイサイプルシップに関する学びの冊子が英語、スペイン語、ポルトガ

ル語、仏語、中国語のバージョンで作成され、2つの資料が日本語に訳されており、アングリカンコミュニオンのホームページの中にある宣教の所で見ることが出来ます。このように全世界聖公会は「意識的に弟子を生きること」、「弟子を作る」ということを標語として宣教に従事しているのですが、この標語の土台にあるのは福音書におけるイエスの弟子たちへの呼びかけです。ガリラヤ湖で漁師であったシモンとアンデレに「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と声をかけるイエス、また弟子たちに「出て行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」と呼びかける復活されたイエスの声を今一度想い起こすことが原点にあります。「イエスの弟子

である」ということは何よりもまず、イエスといつも共に歩む人です。イエスの声を聞きながらイエスと共に旅をする人です。イエスの声を聞き、イエスの振る舞いに触れるためには、これらのことが記されている聖書にじっくりと目を向ける必要があります。すでにキリスト者として長い教会生活を歩んでおられる方も今一度、全てをリセットして、イエスの招きの声を聞き、イエスの言葉、振る舞いを「学んでいく」必要があります。このようなことから世界の聖公会の諸管区・諸教会において「意識的に弟子を生きること」、「弟子を作る」というビジョンを押し進めるための聖書やキリスト教教理等の学びに関するプログラム、ワークショップなどが設けられ活発に行われています。神戸教区神学塾運営委員会でもこのような学びの機会を提案することができるよう検討したいと思っております。

# 鳩だより

《敬称略》

## 祝 堅 信

5月21日(日)  
エピファニー 一法師 学  
神戸昇天教会

5月14日(日)

ル カ 赤 堀 一 讚  
岡山聖オーガスチン教会

## 祝 堅 信・初 陪 餐

5月28日(日)  
テレジア 長 田 步 祈  
神戸聖ミカエル教会

## ご 逝 去

4月27日(木)

ヤ コ ブ 太 原 晃 一  
神戸聖ミカエル教会

6月3日(土)

ハ ン ナ 藤 側 アヤ子  
広島復活教会

## 7月9日 海の主日

全世界のミッション・トゥ・  
シーフエアラースの働きおよび  
港の仕事に従事する人と  
その家族のため、  
東京、横浜、神戸ミッション・  
トゥ・シーフエアラースのために  
祈り、信施を献げましょう。

## 山陰伝道区

5月14日(日) 山陰伝道区合  
同野外礼拝を島根県安来市広  
瀬の三日月公園で行う予定で  
したが、残念ながら雨天のた  
めに、予定を変更して広瀬基  
督教会と米子聖ニコラス教会  
に分かれて、それぞれに集まっ  
て主日礼拝を行いました。  
広瀬では23名(左写真)、米  
子では29名が出席し交流を持  
ちました。  
今年山陰伝道区の6教会  
の信徒が共に集まることはで  
きませんでした。今後とも継  
続して行えるように祈ってい  
ます。



## 西日本宣教協働区主催 祈りのつどい

神戸・九州・沖縄の3教区で構成されている  
西日本宣教協働区協働委員会では、各教区持  
ち回りでリモートによる「祈りのつどい」を  
開催し、二巡目に入ります。これは3教区が  
共に祈り、分かち合うことを目的とし、交わ  
りを深めるために企画されました。教区内  
の各教会の教役者、信徒、関係者の皆様も  
ぜひ、ご参加くださいますようにご案内申し  
あげます。

担当委員 司祭 瀬山 会治

\*詳細につきましては、後日、教区事務所よりご案内を  
配布いたしますので、そちらをご覧ください。

### 日 程

第4回 祈りのつどい 担当 九州教区  
7月11日(火) 19時~(30分)

第5回 祈りのつどい 担当 神戸教区  
8月25日(金) 19時~(30分)

第6回 祈りのつどい 担当 沖縄教区  
9月12日(火) 18時~(30分)

## 8月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2023年8月3日(木) 午前10:30  
場所 神戸聖ミカエル大聖堂  
司式 主教 小林 尚明  
説教 司祭 八代 智

### \*8月の記念逝去教役者

1日	司 祭	アンデレ	松 尾 常 雄
3日	伝道師		益 田 喜 代 吉
3日	司 祭	シドニー・ス	ワ ン
5日	主 教	エドワード・ピカステス	
7日	宣教師	エミー・ウ	ー レ イ
9日	宣教師	E・ト	ン プ ソ ン
9日	司 祭	ミカエル	岡 崎 正
14日	司 祭	ピーター・ジャクソン	
17日	司 祭	パウロ	古 本 正 夫
17日	伝道師		野 田 璞 水
18日	司 祭		関 翊
20日	司 祭	ヨハネ	末 吉 時 信
25日	宣教師	エリザ	・ リ ッ ト ソ ン
27日	司 祭	ダミアン	村 瀬 敬 輔
30日	主 教	ヨハネ	古 本 純 一 郎